

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044101) フランス語Ⅰ(1) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期月3,木2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 金澤 忠信, 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。 【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ 1ーパリをめぐる (navi.fr 1—Paris)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語 (ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすいなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかる時間がかなりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044102) フランス語Ⅰ(2) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期月3, 木3	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
	関連授業科目		
担当教員名 園部 裕子, 太田 陽子, 金澤 忠信	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。 【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ 1ーパリをめぐる (navi.fr 1—Paris)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語 (ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすいなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044103) フランス語Ⅰ(3) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期月3,木2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信, 太田 陽子, 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。 【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ 1ーパリをめぐる (navi.fr 1—Paris)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語 (ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすいなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないもので、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかる時間が過ぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044104) フランス語Ⅰ(4) FrenchⅠ フランス語Ⅰ FrenchⅠ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期月4,木2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 園部 裕子, 金澤 忠信	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験5級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ 1ーパリをめぐる (navi.fr 1—Paris)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語 (ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社			
辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすいものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。			
ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044201) フランス語Ⅱ(1) FrenchⅡ フランス語Ⅱ FrenchⅡ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 後期月3, 木2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 園部 裕子, 太田 陽子, 金澤 忠信	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験4級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。 【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。 【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) ＊途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ1ーパリをめぐる(navi.fr1ーParis)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語(ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取ってみて、使いやすいなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかる時間がかなりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044202) フランス語Ⅱ(2) FrenchⅡ フランス語Ⅱ FrenchⅡ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 後期月3, 木3	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信, 太田 陽子, 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験4級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ1ーパリをめぐる(navi.fr1ーParis)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語(ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社 辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすいものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。 ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。 月・木いずれかの中間試験を受験しなかった場合、単位は認定されない。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044203) フランス語Ⅱ(3) FrenchⅡ フランス語Ⅱ FrenchⅡ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 後期月3,木2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 モーリエール フランソワ, 園部 裕子, 金澤 忠信	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験4級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) ＊途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ 1ーパリをめぐる (navi.fr 1ーParis)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語 (ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社			
辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすそうなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。			
ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかる時間がかなりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード：044204) フランス語Ⅱ(4) French Ⅱ フランス語Ⅱ French Ⅱ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 後期月4, 木2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 2	
	関連授業科目		
担当教員名 モーリエール フランソワ, 金澤 忠信, 園部 裕子	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 週2回 × 15回 + 自学自習(予習・復習を必ずすること)			
授業の概要 日常生活のなかでコミュニケーションの手段として使われている生きたフランス語を扱う。まずは挨拶などの慣用表現から始める。毎回、教科書に沿って少しずつ初級文法・基本語彙を説明し、フランス語の仕組みを理解できるようにする。フランス語を正確に読み、聞き、書き、話す総合的な能力が身につくよう、文章の読解や練習問題だけでなく、聴き取りや発音練習を繰り返し取り入れる。またフランス語話者のしぐさや考え方などにも触れながら、フランス語圏の文化や社会について話し合う。			
授業の目的 フランス語の初歩的な文法・語彙・発音規則を習得する。日本語とも英語とも異なる言葉の使い方を学ぶ。言葉の背景にある考え方、文化や社会についても理解できるようになる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語検定試験4級合格程度の語学力が獲得できる。 言葉の背景にある考え方、文化や社会について理解できる。			
成績評価の方法と基準 平常点(出席および授業への積極的な参加)40%、中間試験20%、期末試験40%によって総合的に評価する。いずれかの要素が「0ゼロ」の場合、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
教科書に沿って、まずCDを聞き、会話文や例文を理解し、各課の練習問題を解く。 初級段階で習得すべき基本的な文法・語彙・表現に慣れ親しみ、実際に使えるようにする。			
【学習の方法】 受講生には、目・口・耳・手など、からだ全体を使って学習に取り組むことが求められる。 ・毎回授業に出席し、そのつどしっかり理解・練習すること。 ・進路に合わせて予習、復習、宿題をして授業にのぞむこと。 ・付属のCDを繰り返し聴き、声に出して読む練習を継続すること。			
【授業計画】 ・第1回～第15回 (学習範囲については、初回の授業で指示する) *途中で中間試験を行う。日程や範囲については授業中に指示する。 ・学期末試験			
教科書・参考書等 月曜、木曜、それぞれ一つの教科書を進める。生協書籍部にて購入すること。 月曜：有富智世ほか『なびふらんせ 1ーパリをめぐる (navi.fr 1—Paris)』朝日出版社 木曜：金澤忠信ほか『ロマン・フルーヴー流れにのせてフランス語 (ROMAN FLEUVE)』駿河台出版社			
辞書は紙のものを購入し、毎回、必ず授業に持参すること。 自分で実際に手に取って見て、使いやすいなものを選ぶとよい。 推薦辞書として『プチ・ロワイヤル』(旺文社)、『ロベール・クレ』(駿河台出版社)、『ディコ』(白水社)、『クラウン』(三省堂)、『プログレッシブ』(小学館)。			
ポケット版は1年間の必要単語数を満たさないで、使用してはいけない。 電子辞書は、初学者は単語を引くのにかかりすぎるので、推奨しない。 スマートフォンを辞書代わりに使用してはならない。			
オフィスアワー 各担当教員が授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業には積極的に参加すること。無断欠席が一定回数を超えた場合、また授業に参加しない場合「不可」とすることもある。			

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード：044301) フランス語Ⅲ (1) French Ⅲ フランス語 III French III	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期月2	対象年次及び学科 2～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	フランス語会話III	
	履修推奨科目	フランス語 I, II	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 フランスの時事問題、文化、社会、生活をテーマとするテキストを用い、フランス語を学びながら、フランスの文化や社会を深く知る。付属のビデオ教材を見たうえで、ディスカッションをする。			
授業の目的 1年次のフランス語I, IIで学んだ基本的な文法・語彙や慣用表現を復習したうえで、フランス語の長文を読み、フランスの文化や社会について学ぶための基礎を身につける（共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル（幅広いコミュニケーション能力）」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 （工学部JABEE基準）
初級で学んだ語彙・文法を実践的に使用することができる。フランス語の学習を通じて、広く世界に目を向けることができる。フランス語で書かれた文書・資料を部分的にでも自分の力で読める。仏検3級合格程度のフランス語力を獲得する。			
成績評価の方法と基準 平常点（授業への参加）、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。平常点40%、中間試験30%、期末試験30%。少なくとも2/3（10回）は出席すること。ただ、授業に出席するだけでは平常点は与えられない。積極的な参加・発表が評価の対象となる。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 教科書は全部で16課ある。そのうち半分程度を選び、2回で1課程度進む。付属のビデオ教材を見る。与えられたテーマについて学生どうしでディスカッションし、発表する。各課の文章を授業で読む。各課の練習問題が宿題として課される。詳細は初回の授業で指示する。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション（この授業の概要、単位の取り方、学習の仕方の説明） 第2～6回 3～4課分 第7回あるいは第8回 中間試験 第8～15回 3～4課分 学期末試験			
【自学自習に関するアドバイス】 予習として、まず自分で文章に目を通し、分からない単語をチェックして、辞書で意味・用法などについて調べておく。新しい語彙や文法事項はそのつどしっかり覚え、復習する。			
教科書・参考書等 パトリス・ルロワ、國枝孝弘、『レフレクション 異文化理解のフランス語』、朝日出版社、2,500円＋税（生協の書籍部にて購入）。			
オフィスアワー 木曜4校時。ただし、まず授業時に相談すること。幸町南キャンパス3号館2階、金澤研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ディスカッションをするアクティブラーニング型の授業です。履修希望者が偏った場合、他クラスと人数調整することがあります。			

ナンバリングコード B2FRA-abcG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード：044302) フランス語Ⅲ(2) French Ⅲ french Ⅲ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期月2	対象年次及び学科 2～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abcG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目 の科目)	フランス語Ⅰ、Ⅱ、外国語演習(経済学部開設)	
	履修推奨科目	フランス語Ⅰ、Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 1年間学んできたフランス語をさらに深く学習し、基本的な文法をひとつとおり身につける(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)のための授業です。 教科書から、学習していない文法項目をふくむLeçonを抜粋する。 既習文法や語彙をふまえつつ、まだ習得していない文法項目を説明する。 さまざまな表現を使って、フランス語に特有の言い回しに親しめるようにする。 *フランス語学習を、初修外国語6単位で終わらせる場合：将来また再開したくなった時のために、基礎文法をひとつとおり説明する。 *フランス語学習を、外国語演習(経済学部開設の科目／全学共通課目の高学年向け教養科目)まで続ける場合：さらに実践的な言語運用能力を養うために必要となる基礎文法を、ひとつとおり説明する。			
授業の目的 初修外国語の初歩を確実に身につけ、実践的な言語運用能力を養えるようにするために橋渡しをする、語学の授業です。 ・1年目には学習しなかった範囲の、フランス語の基礎文法を学ぶ。 ・自分の経験、意見、対象の説明などについて、ニュアンスも含めて会話や文章を読み解く。 ・音源を元に発音・会話の練習を続けて、フランス語らしく発音することに慣れる。 ・学習した表現を用いて、自分の経験、意見などについて短文を書く。 ・世界のフランス語圏の文化や社会について学ぶ。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・フランス語の基礎文法をひとつとおり理解できる。 ・意思、対象の描写、ことがらの説明などについて、ニュアンスも含めて会話や文章を理解できる。 ・音源を使った発音練習を繰り返して、少しずつきれいに発音できるようになる。 ・学習した表現を用いて、自分の経験、意見などについて、短文を書くことができる。 ・世界のフランス語圏の文化や社会を理解できるようになる。			
成績評価の方法と基準 日常点(積極的な参加と課題提出)30%、中間試験30%、期末試験40% により総合的に判断する。 いずれかの素点がまったくない場合(受講・受験なしの場合)、単位は認定されない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 ○教科書は、Leçonごとに、フランス語圏のいろいろな都市をめぐる内容(1年次月曜クラスのものの続編) ○ひとつのLeçonをおよそ2回の授業で学習する。 ○読み書き、聞き取りをまんべんなく学習する。 ○問題exercicesは宿題にするので、復習をかねて自分で解いてみる。 ○毎回、Expressionsなどから、活用表や短文を暗記する課題を出す。 【自宅学習の方法】 ○予習1. 音声を《繰り返し》聴き、自分で発音練習をする。練習すればするほど、うまく発音できるようになります。 ○予習2. 単語調べ、会話の意味を考えておく。 ○復習1. 文法の復習 2. 暗記の課題を繰り返し書いて覚える 3. 問題を解く。			

【教科書の内容】

○未習得の文法項目を学べるように、いくつかのLeçonを抜粋して進める。

第1回：★予習をしてくること★

Leçon 2「Quimper」

全体にざっと目をとおり、Grammaire、Conversationの単語調べをしておく（単語帳を作るとよい）。

以下、講義中に指示する。

...

第8回：中間試験

...

第15回：まとめ

期末試験

教科書・参考書等

教科書 ローラン・アヌカン他『Parallèle 2 パラレル2』白水社

生協で購入すること。

辞書は、毎回の授業に持参すること。スマートフォンを辞書の代わりにしないこと。

オフィスアワー オフィスアワー：予め予約のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・フランス語Ⅰ・Ⅱの単位既得者を対象とする。
- ・この授業は、受講生の自宅学習と、授業中の積極的な参加がなければ、進行しない。
- ・他の受講生の迷惑、やる気をそぐ行為（予習をしない、頻繁な遅刻や欠席、居眠り等）は慎むこと。改善が見られない場合、学期中でも受講を断り、単位は認定しない。

【受講者数の調整を行う場合があります】

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Eg1 授業科目名 (時間割コード: 044401) フランス語会話Ⅲ (1) French conversation Ⅲ French conversation Ⅲ	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期木3	対象年次及び学科 2～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目	フランス語	
	履修推奨科目	フランス語	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 挨拶、趣味、持ち物、人物の描写などについて、フランス語を使って口頭で表現する練習をする。フランス語をたくさん聞いたり、会話したりする作業が中心の、アクティブラーニング方式の授業です。間違っているにもかかわらず気にしないで良いので、とにかく声を出し、たくさん発言してもらいたい。 フランス語を使って話をしてみたい学生を歓迎する。 【他の授業科目との関連】 フランス語会話Ⅲは、口と耳を使う訓練を中心に行う。フランス語Ⅲは、文法項目の学習に基づいた言語運用能力の向上をめざす授業になる。合わせて総合的なフランス語運用能力の向上を目指す。			
授業の目的 ・ 共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応。 ・ 1年目の既習文法を使いこなすことが目的。 ・ フランス語に慣れ、聞き取りと会話能力を少しずつのばす。 性数の一致と冠詞・所有形容詞に気をつけ、動詞の現在形の活用を使ってやりとりできる。 ・ 持ち物、趣味、人物などについて、短いやりとりができる程度の能力 (DELF A2程度*) が身につく。 *DELFはフランス国民教育省認定の公式フランス語資格			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・ 性数一致に気をつけて冠詞・所有形容詞を使える。 ・ 動詞の現在形の活用を使える。 ・ 挨拶、人物描写などについての短い会話を聞いて、どのような場面かを説明できる。 ・ 自分と家族など身近な人物を紹介するexposé (2分程度の発表) をフランス語でできるようになる。			
成績評価の方法と基準 日常点 (積極的な参加) 30%、〈フランス語の問題集〉の宿題提出状況10%、授業の成果としての自己&知人紹介30%、学習した内容についての筆記期末試験30% などにより総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 1年目に学んだ基礎文法、動詞の現在形の活用を使いこなせるようにするための授業。 身の回りの物・趣味・性格や特徴についての語彙を学んで、口頭で使ってみる。とくに性数一致に気をつけて発音する練習を続けて、自己&知人紹介ができるようにする。 *授業中に使う課題は、外国語としてのフランス語 (Français Langue Etrangère: FLE) 学習用にフランスで発行された教材を中心に、日本人向けの聞き取り教材、インターネット上の音源などから用意する。 【授業の課題】 ○自分および、自分と性別の違う知人 (家族、友人など) についての紹介を 2分程度の自己&知人紹介として準備し、最終回に発表する。 ○既習文法項目 (性数一致、冠詞・所有形容詞、動詞の現在形の活用) について 〈フランス語で書かれた問題集〉を宿題にし (10回程度)、期末試験とする。 【方法】 ・ アクティブラーニング形式で、グループ学習で進行する。 ・ 授業中の質問をフランス語でするためのセリフを暗記し、使ってみる。 ・ 持ち物、趣味、人物描写などの語彙を学び、口頭でやりとりの練習をする。 ・ 聞き取り教材を聞いて、どのような場面かを説明するためにディスカッションする。 ・ 早口言葉や歌で口を動かす練習をする。 【自宅学習】 ・ 〈フランス語で書かれた問題集〉の宿題を解く。 ・ 次回のプリントの単語調べなど予習をする。 ・ Moodle上の教材を用いて、聞き取り・発音練習をする。			

・自己&知人紹介を準備し、練習する（授業の後半）。

【授業の計画】

- (1) 授業の進め方・前置詞の再確認
 - (2)～(4) 知り合う・自己紹介する *早口言葉 1
 - (5)～(7) 身の回りの物の説明をする
 - (8)～(10) 趣味を言う *早口言葉 2
 - (11)～(13) 性格や特徴を言う *Chanson
 - (14) 復習とまとめ、リハーサル
 - (15) 自己&知人紹介exposé oral
- 期末試験

教科書・参考書等

基本的に印刷資料を用意する。この授業用にファイルを用意して管理すること。

辞書は毎回、持参すること。

参考書については、必要に応じて指示する。

オフィスアワー オフィス・アワー：予め連絡・予約すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

最初の授業に出席すること。この授業は、受講生の自宅学習による準備と授業中の積極的な参加がなければ進行しない。課題を怠る、頻繁な欠席や遅刻、居眠り等は授業の進行を妨げ、他の受講生の迷惑にもなるので慎むこと。改善しない場合、学期途中でも受講を断り、単位を認定しない場合がある。

【受講者数の調整を行う場合がある】

ナンバリングコード B2FRA-abxG-1N-Lg1 授業科目名 (時間割コード：044402) フランス語会話Ⅲ(2) French conversation Ⅲ フランス語でフランスを旅する French Conversation III	科目区分 コミュニケーション 科目	時間割 前期木3	対象年次及び学科 2～全学共通科目
	水準・分野 B2FRA	DP・提供部局 abxG	対象学生・特定プログラムとの対応 1N
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目 ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ社会論、外国語演習Ⅰ(フランス語)、外国語演習Ⅱ(フランス語)		
	履修推奨科目 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、フランス語会話ⅢⅢ		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 フランスに旅行しフランス語でコミュニケーションをするための教科書を用いる。フランス語の基礎をしっかりと復習し、フランス語をフランス語で理解する。身につけた語彙・文法を使って実際にフランス語を書いたり話したりする。			
授業の目的 フランス語を読み、書き、話すことで、表現力やコミュニケーション能力を向上させる。異文化について開かれた態度をとれるようになるとともに、一つ以上の外国語において、読み、書き、聞き、話すための基礎的な能力を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」で身につけた基本的な文法や語彙を実際に使い、正確かつ適切なフランス語を書くことができる。簡単な挨拶や短い慣用句を暗記するだけでなく、自分の頭の中で文章を組み立てて、自分の考えをフランス語で表現することができる。			
成績評価の方法と基準 平常点(授業への参加)、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。平常点40%、中間試験30%、期末試験30%。 ※授業に出席するだけでは平常点は与えられない。積極的な参加・発表が評価の対象となる。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 基本的に1回の授業で1課ずつ進んでいく。各課の会話の音声聞いて文章を理解し、表現を練習する。身につけた表現を実際にペアあるいはグループで使って会話する。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション(この授業の概要、単位の取り方、学習の仕方の説明) 第2～7回 教科書第1～6課 第8回 中間試験 第9～15回 教科書第7～13課 学期末試験			
【自学自習に関するアドバイス】 とにかく予習・復習を毎回必ずやること。そして覚えた語彙・表現を授業のなかで実際に使ってみること。			
教科書・参考書等 内村瑠美子ほか、『フランス語でサバイバル! (三訂版)』、白水社、2,000円＋税(生協の書籍部にて購入)。			
オフィスアワー 木曜4校時。ただし、まず授業時に相談すること。幸町南キャンパス3号館2階、金澤研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 基本的に全学共通科目の「フランス語Ⅰ」および「フランス語Ⅱ」を修得していることが履修の条件です。履修希望者が偏った場合、他クラスと人数調整することがあります。			